

特別企画 2
救急医療における女性医師参画の
取り組みについて

2013年 日本救急医学会女性
医師会員アンケート調査結果

日本救急医学会女性医師参画推進特別委員会
順天堂大学浦安病院 救急診療科
角 由佳

日本救急医学会 COI 開示：無

筆頭発表者： 角 由佳

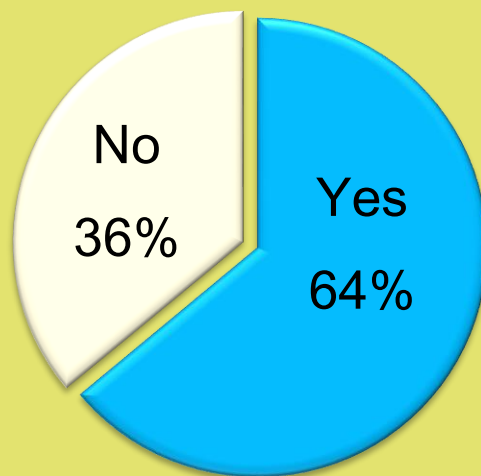
アンケート結果を引用される際には、2013年 日本救急医学会女性医師会員アンケート調査結果（日本救急医学会女性医師参画推進特別委員会）と出典を明記してください。

方法

- 2013年10月1日~10月31日
- 日本救急医学会女性医師会員1050名に対し、郵送で無記名アンケートを依頼した.
- 回答 385名 (37%)

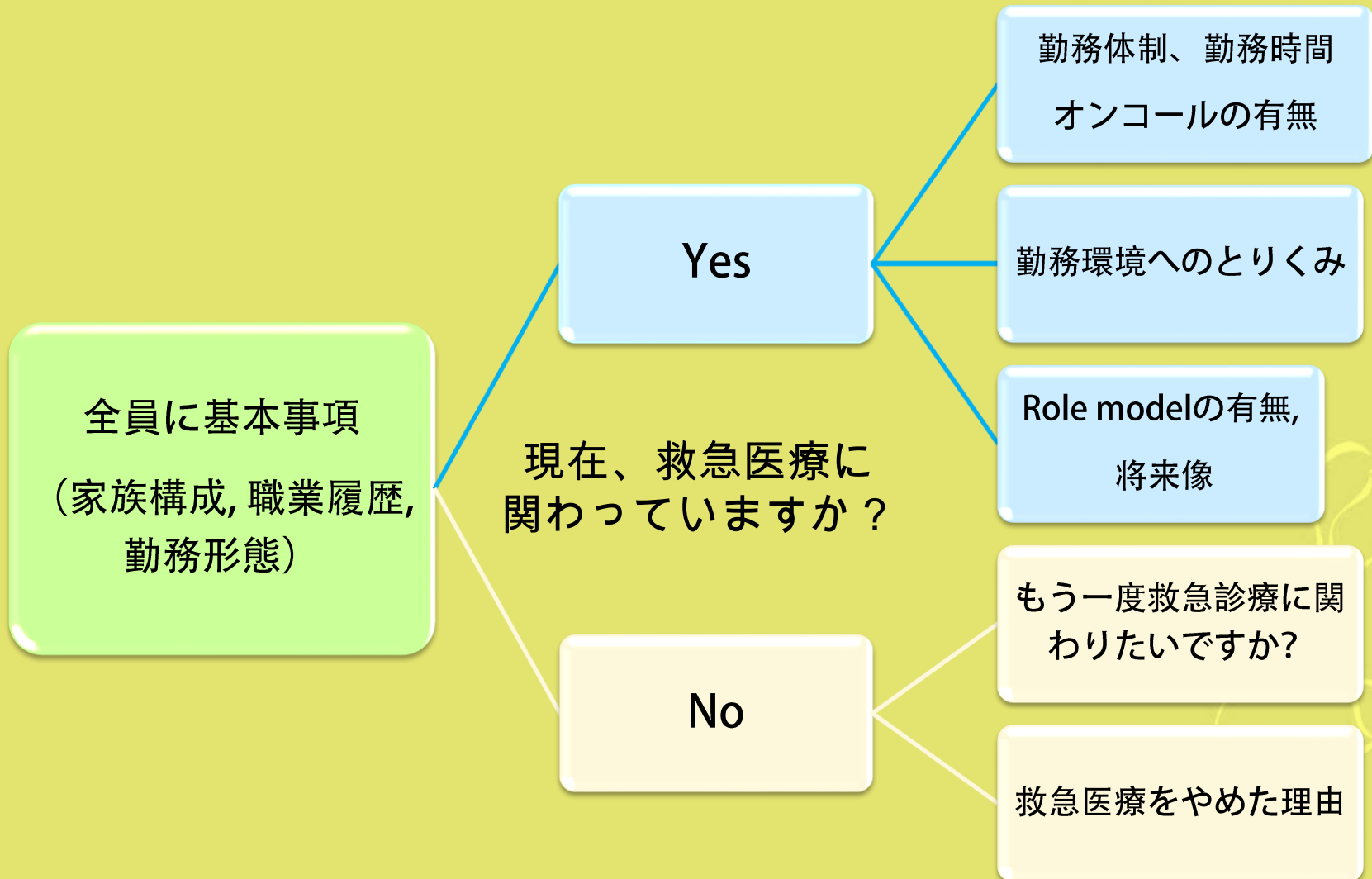
救急医学会専門医144名 (女性専門医の58%)

現在、救急医療に関わっていますか？



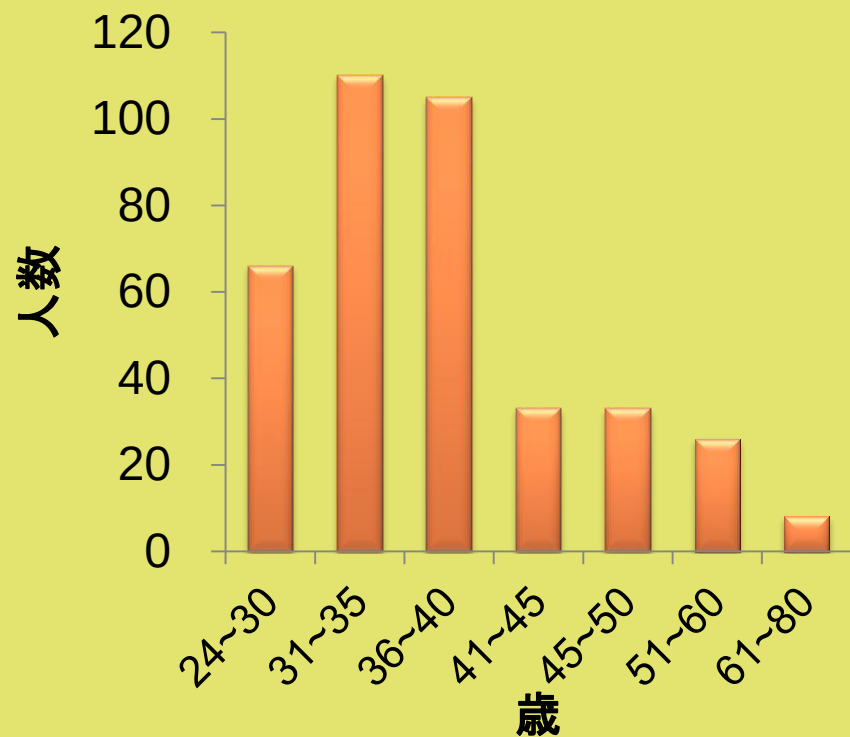
女性救急専門医の
女性参画への関心
の高さ

アンケートの構成

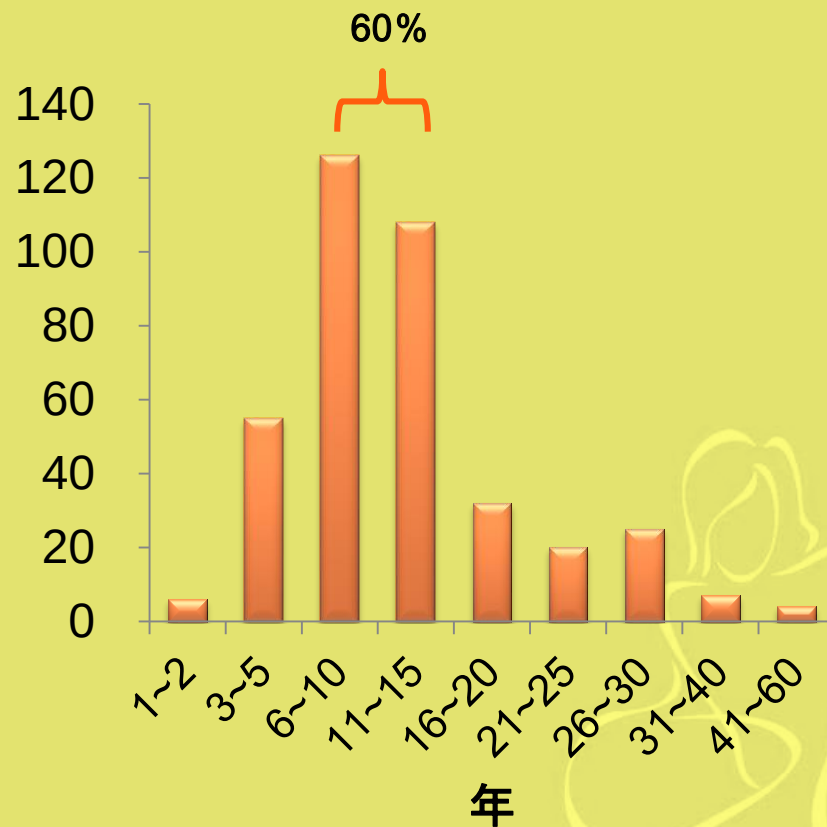


年齢・卒後年数

年齢



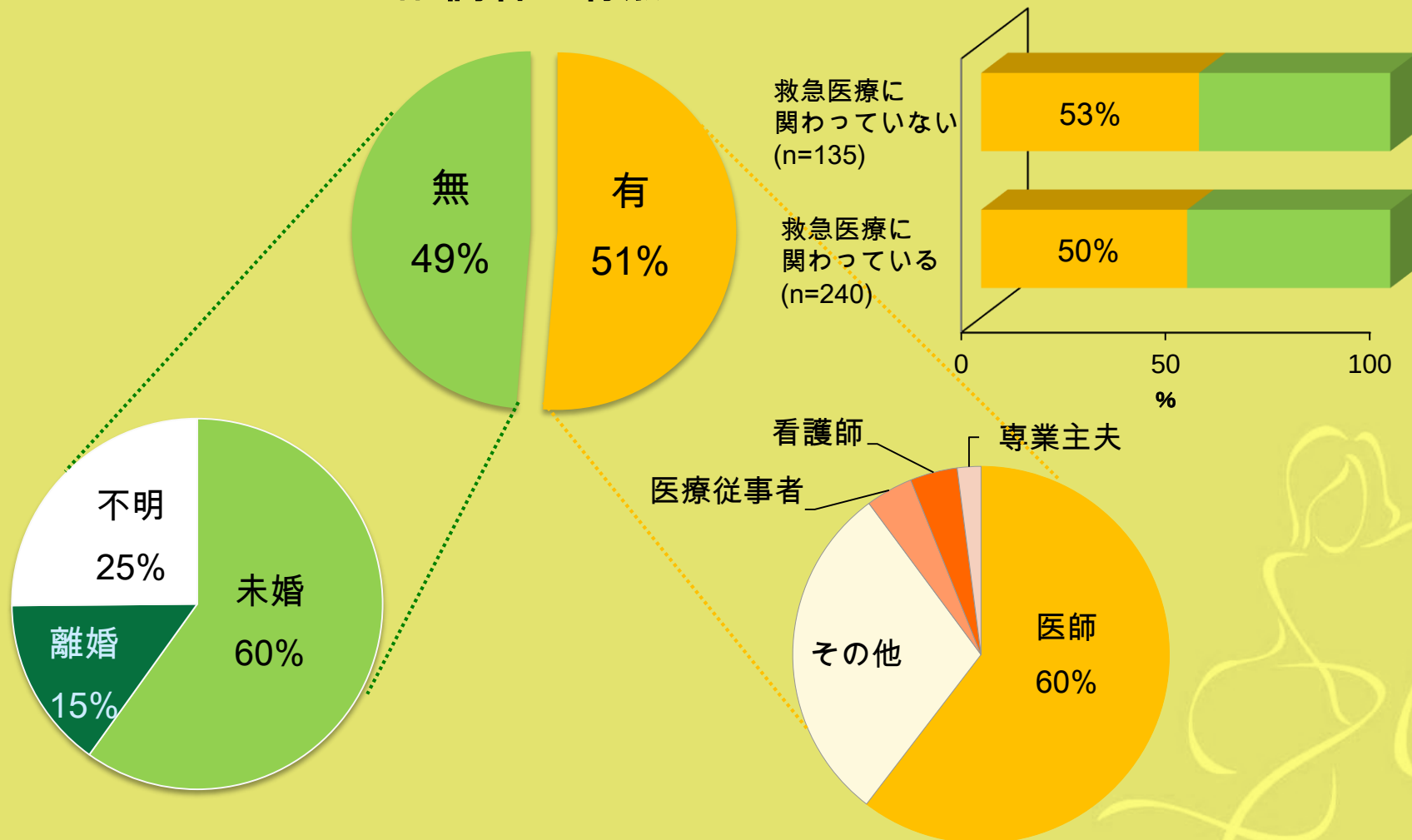
卒後年数



卒後6年目から15年目が60%を占めた。

家族背景（配偶者）

配偶者の有無

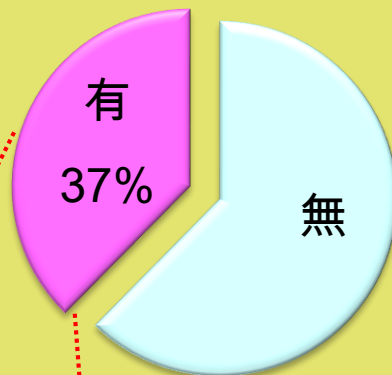


約半数が配偶者がおられ、その6割が医師である。

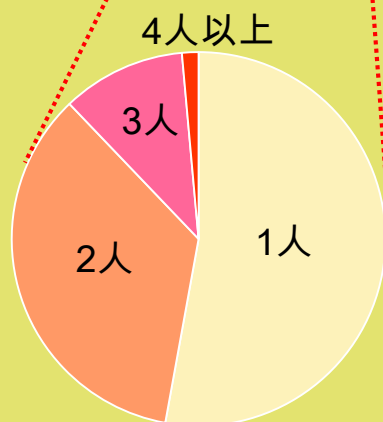
回答者 385名

家族背景（子供）

子供の有無



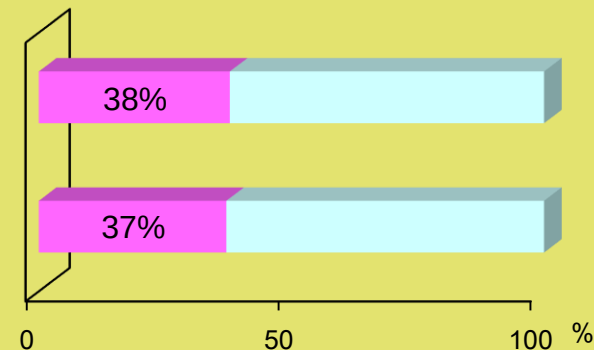
子供の数 (n=143)



子供有 子供無

救急医療に関わっていない
(n=135)

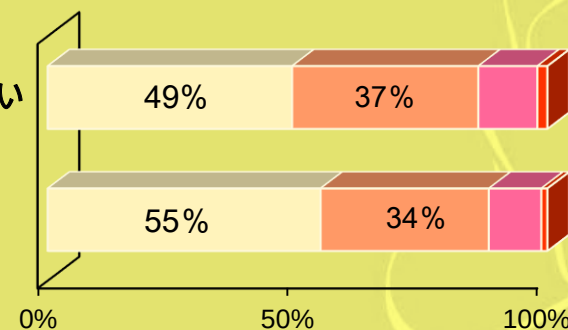
救急医療に関わっている
(n=240)



1人 2人 3人 4人以上

救急医療に関わっていない
(n=135)

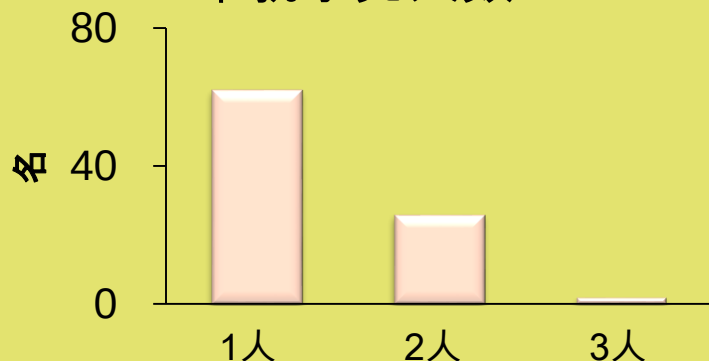
救急医療に関わっている
(n=240)



37%の医師にお子さんがおられる。

家族背景（子供）

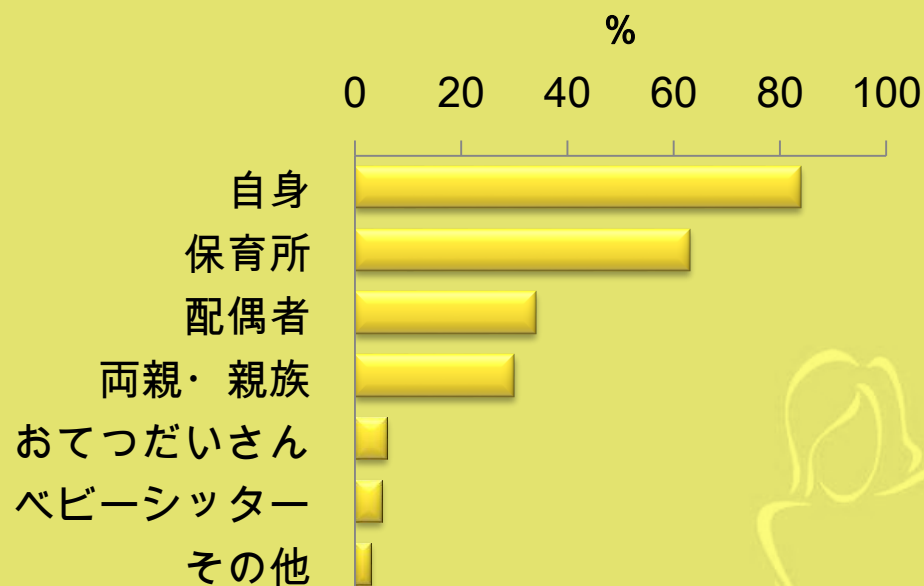
未就学児人数



小学生人数



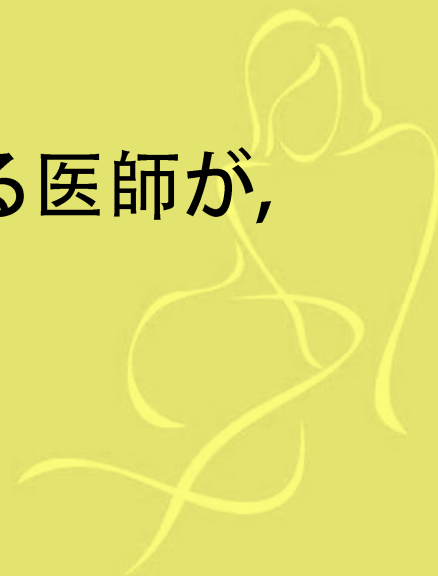
子供の面倒をみる人（複数回答）



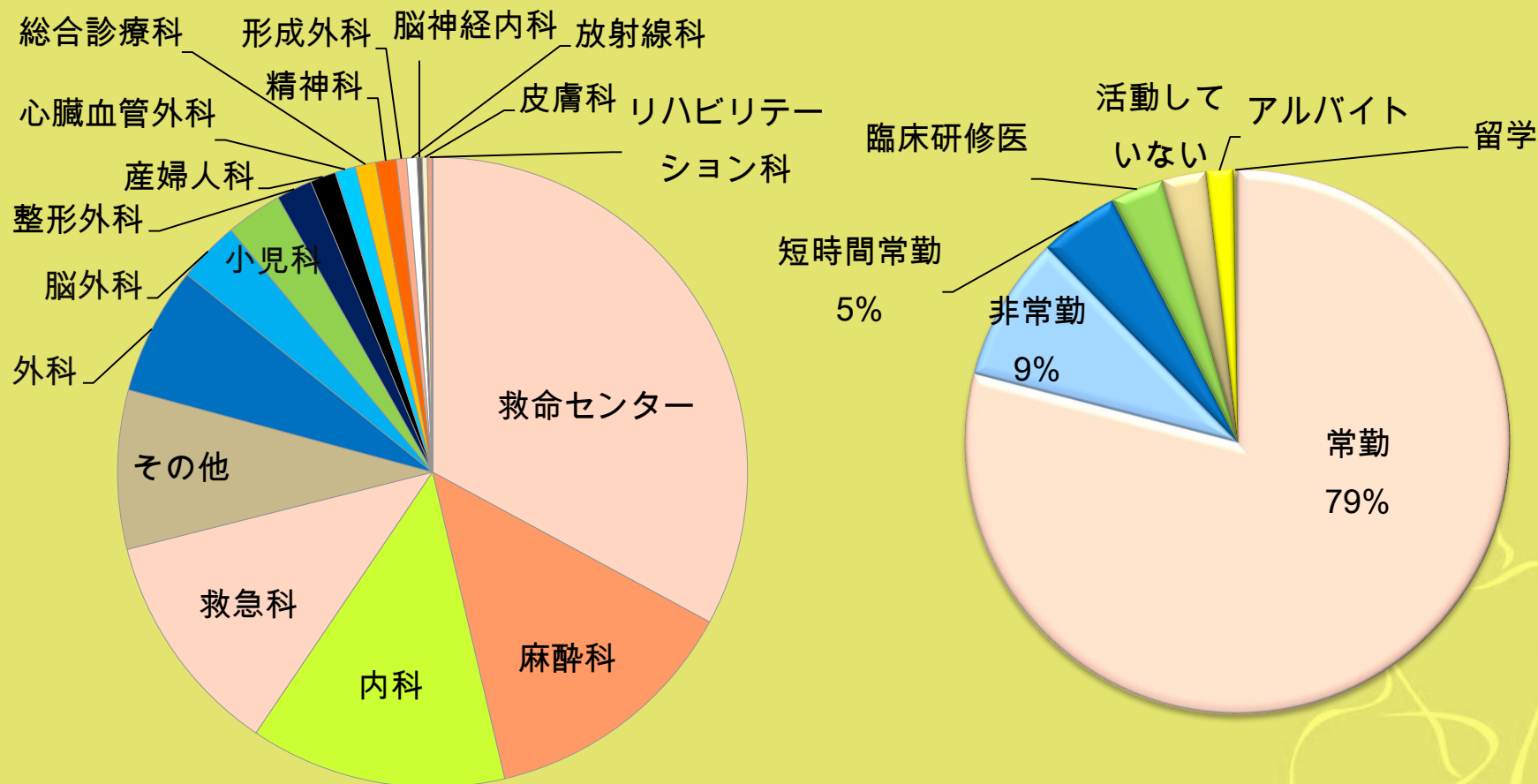
未就学児や小学生の子供が多い。
面倒をみるのは、80%以上がご自身。

家族背景 summary

- 30歳代の卒後10年前後の女性医師が回答者の6割以上をしめた.
- 半数に配偶者がおられ, 配偶者の職業は6割が医師である.
- 未就学児や小学生の子供を育てている医師が, 約4割である.



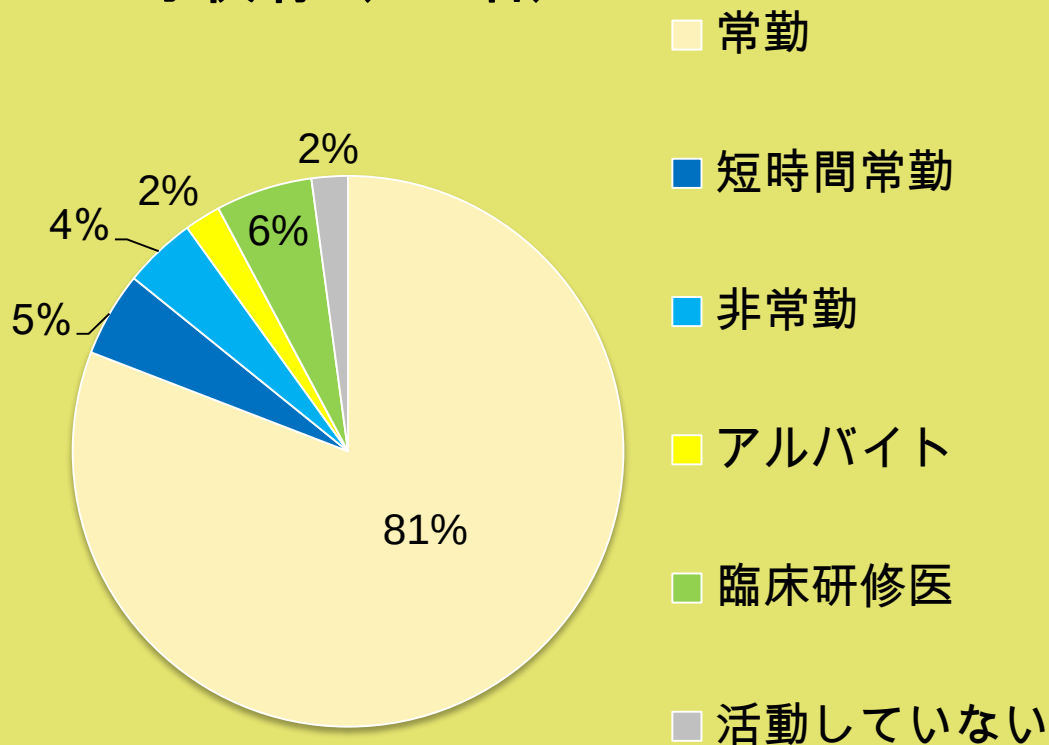
所属科・勤務形態



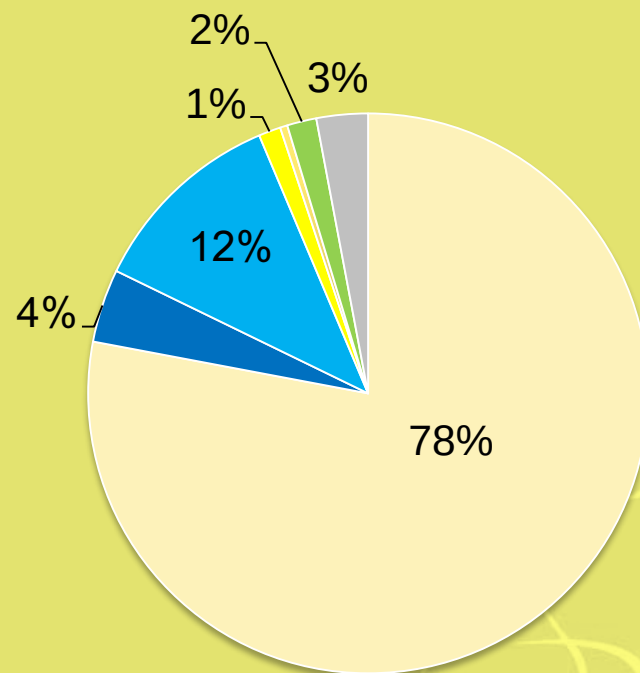
所属科は, 1.救急 45% 2. 麻酔科 13% 3. 内科 13%
80%が常勤, 非常勤 9%, 短時間常勤 5%

勤務形態（子供の有無）

子供有（143名）



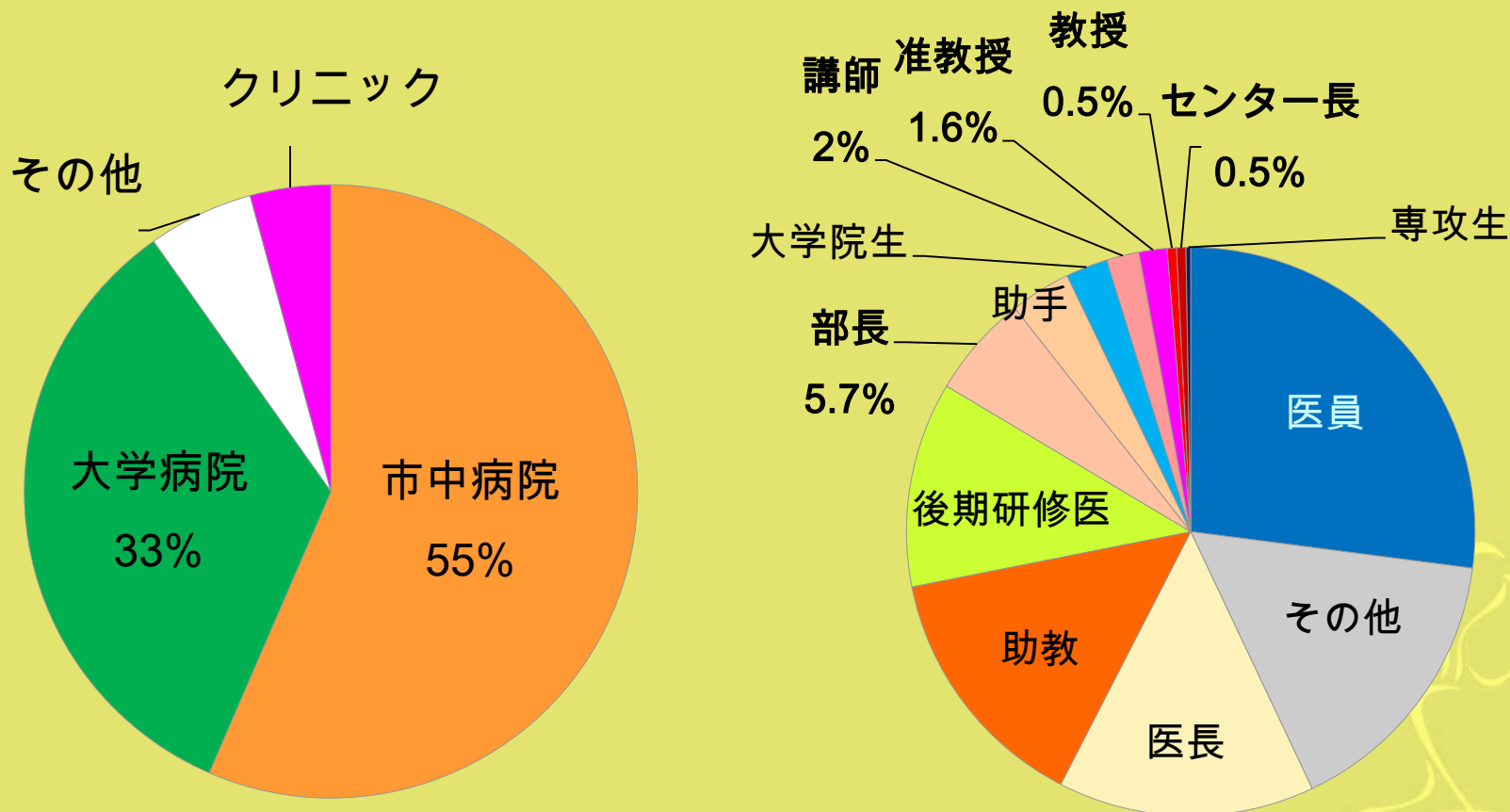
子供無（237名）



子供の有無によって、常勤の割合は変わらず。

Work

勤務場所・身分



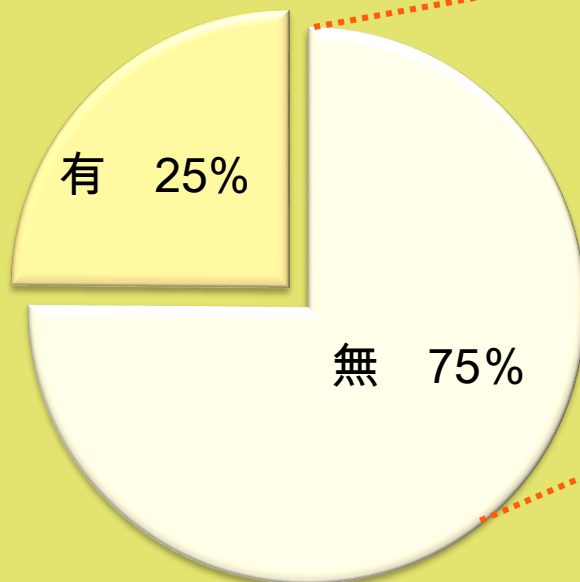
市中病院に勤務している医師が半数以上.
部長 6%, 講師 2%, 准教授 1.6%,
教授 0.5%, センター長 0.5%



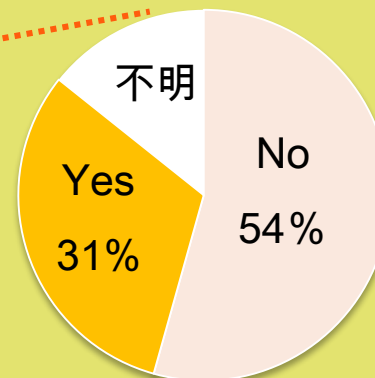
回答者 385名

学位

学位の有無

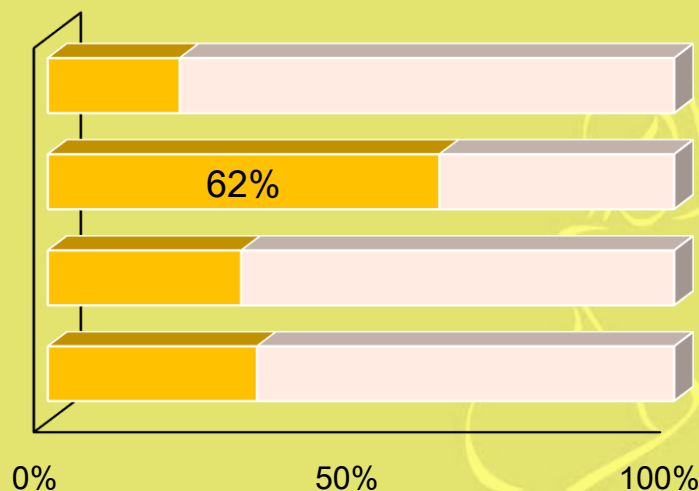


学位取得希望



■ 学位希望有 ■ 学位希望無

市中病院
138名
大学病院
85名
その他
クリニック

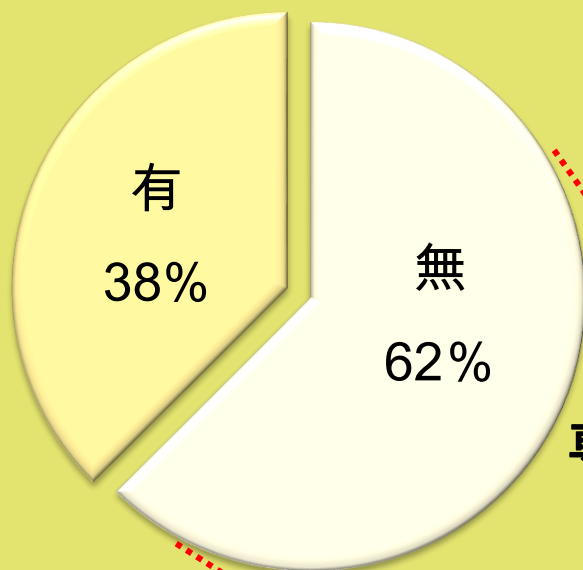


学位取得者は、25%
大学病院勤務者は、学位取得の希望が強い。

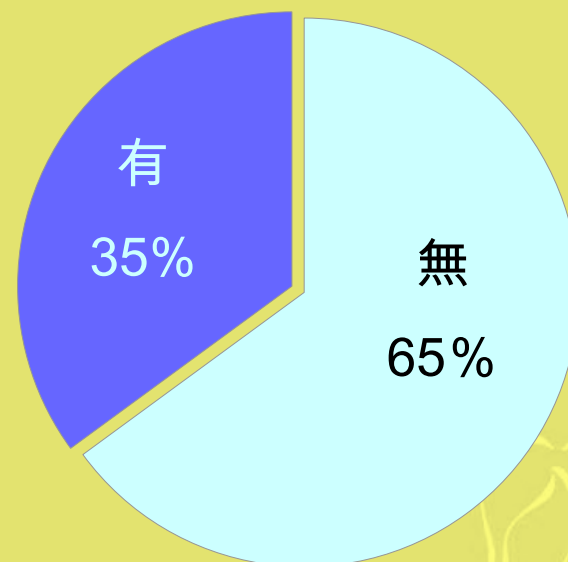
回答者 385名

専門医

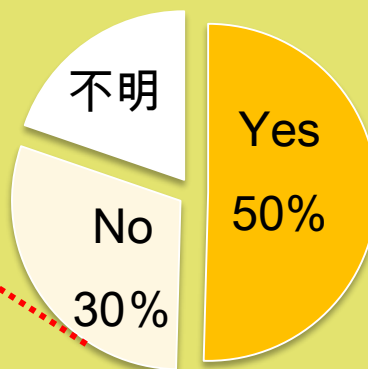
救急専門医の有無



救急以外の専門医の有無

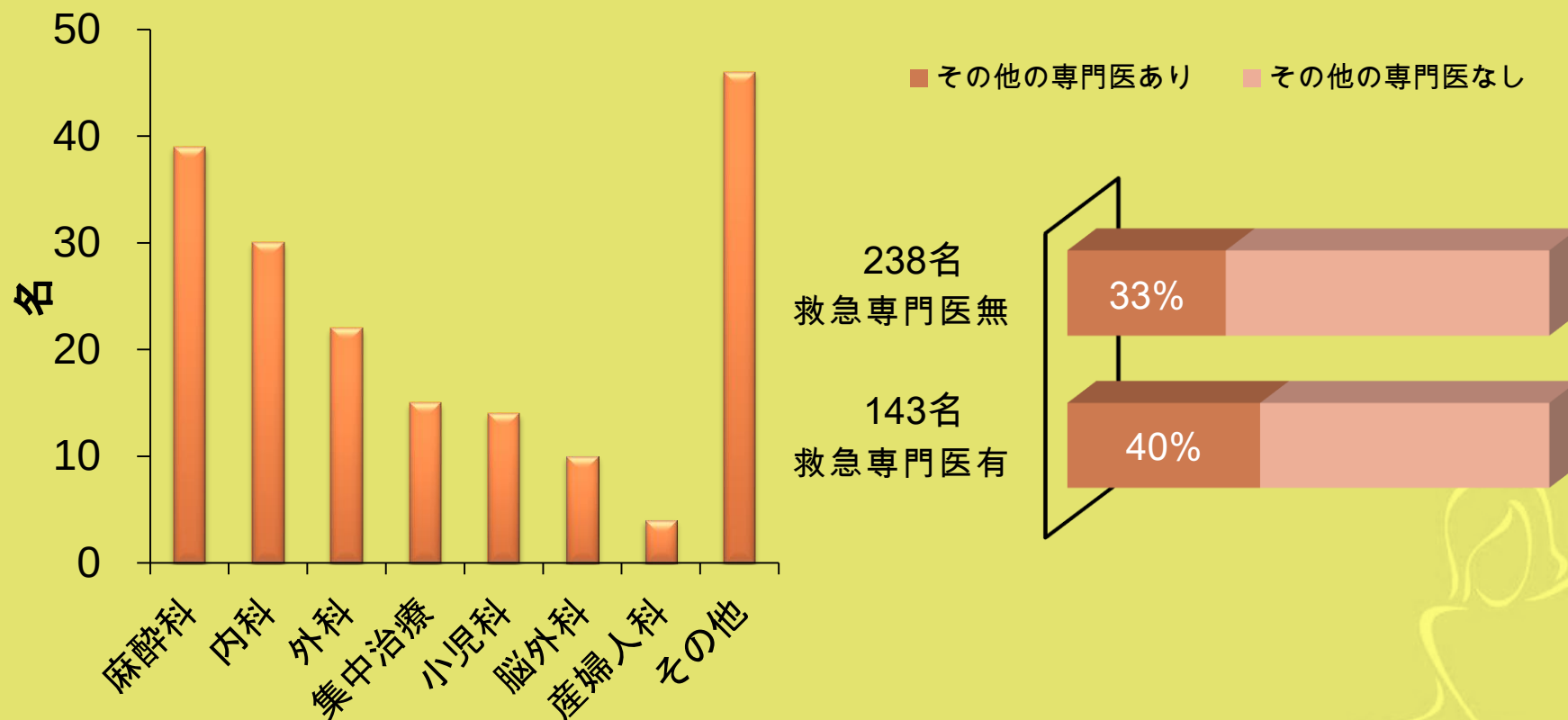


専門医取得希望



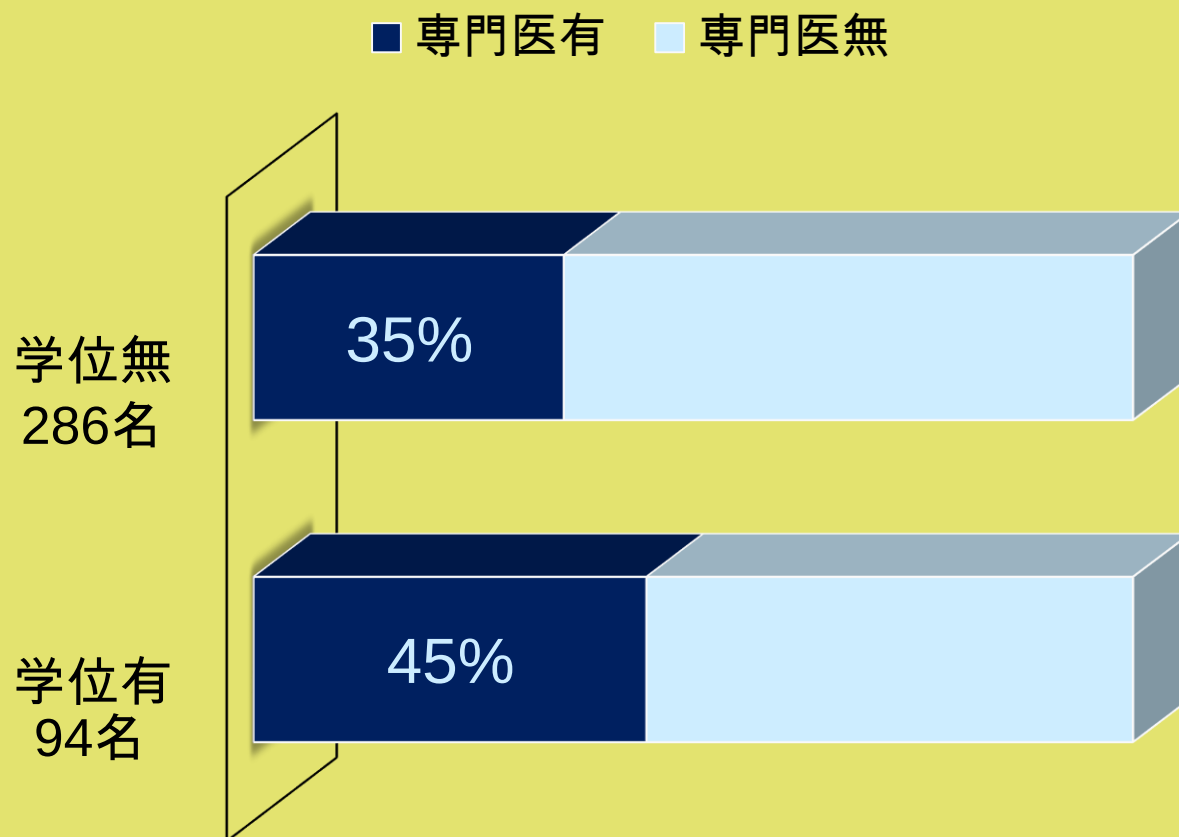
救急専門医は 37%, その他の専門医は35%

救急以外の専門医



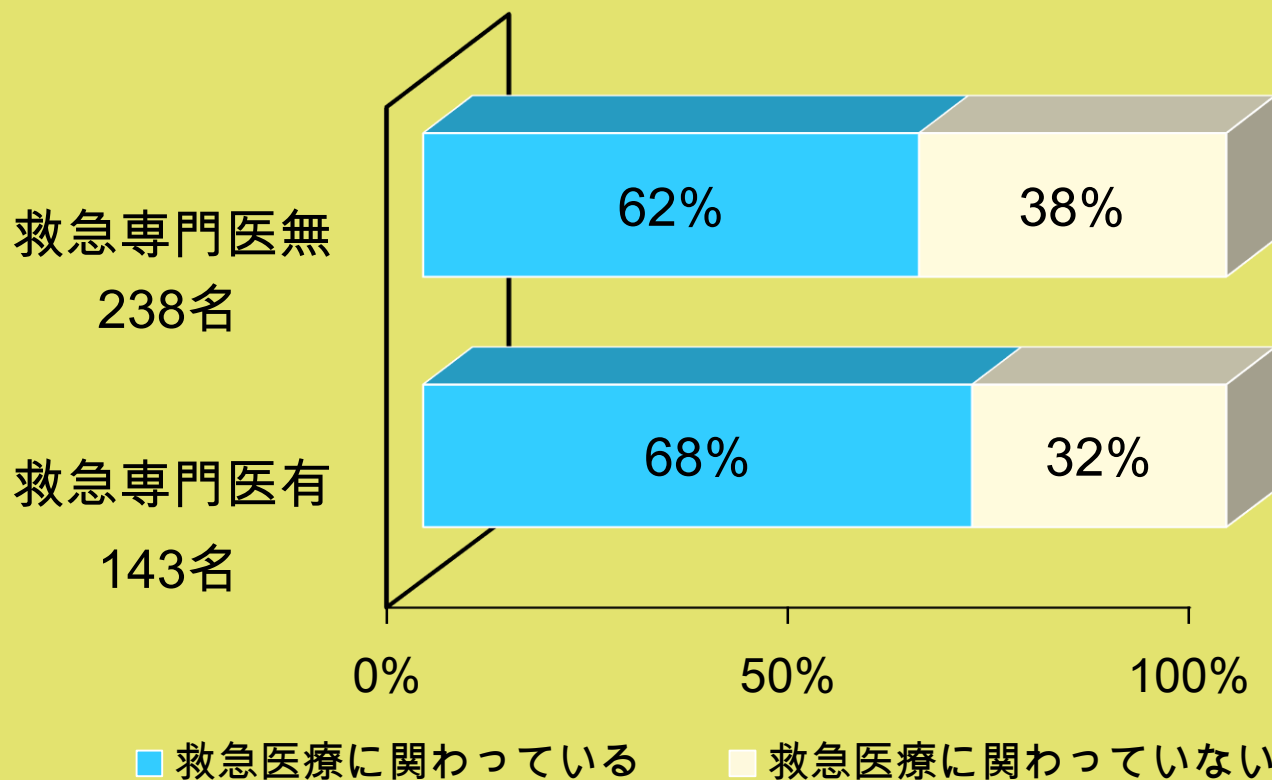
麻酔科, 内科, 外科の専門医が多い.
救急 + 他の専門医をもっている医師は救急専門医の40%.

学位と救急専門医



学位取得者のなかで、救急専門医は45%.

救急医療への関わり (救急専門医の有無)

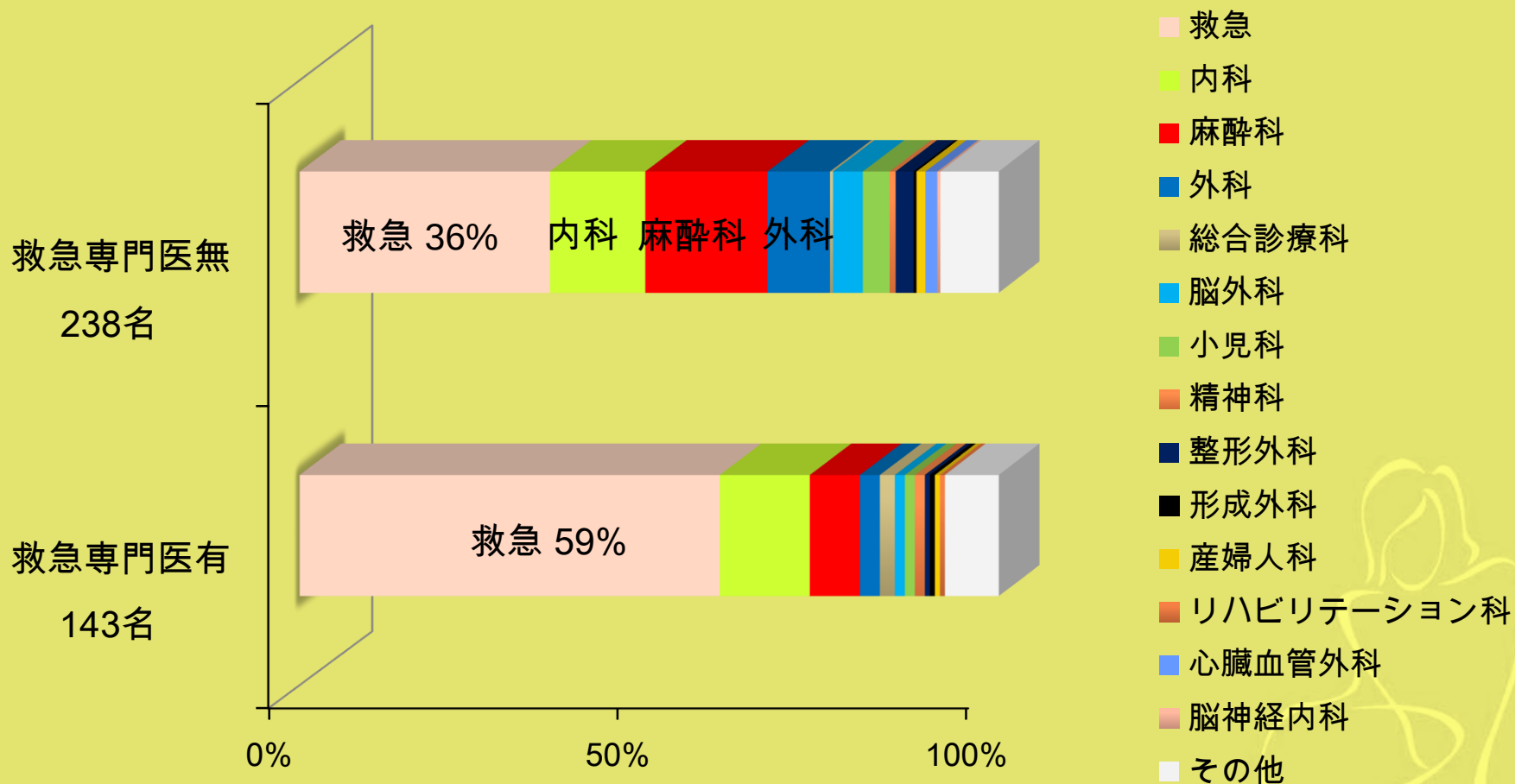


救急専門医の32%が、現在救急医療に関わっていない。



Carrier

所属科（救急専門医の有無）



救急専門医の59%が、救急科で勤務。

回答者 385名

勤務形態 summary



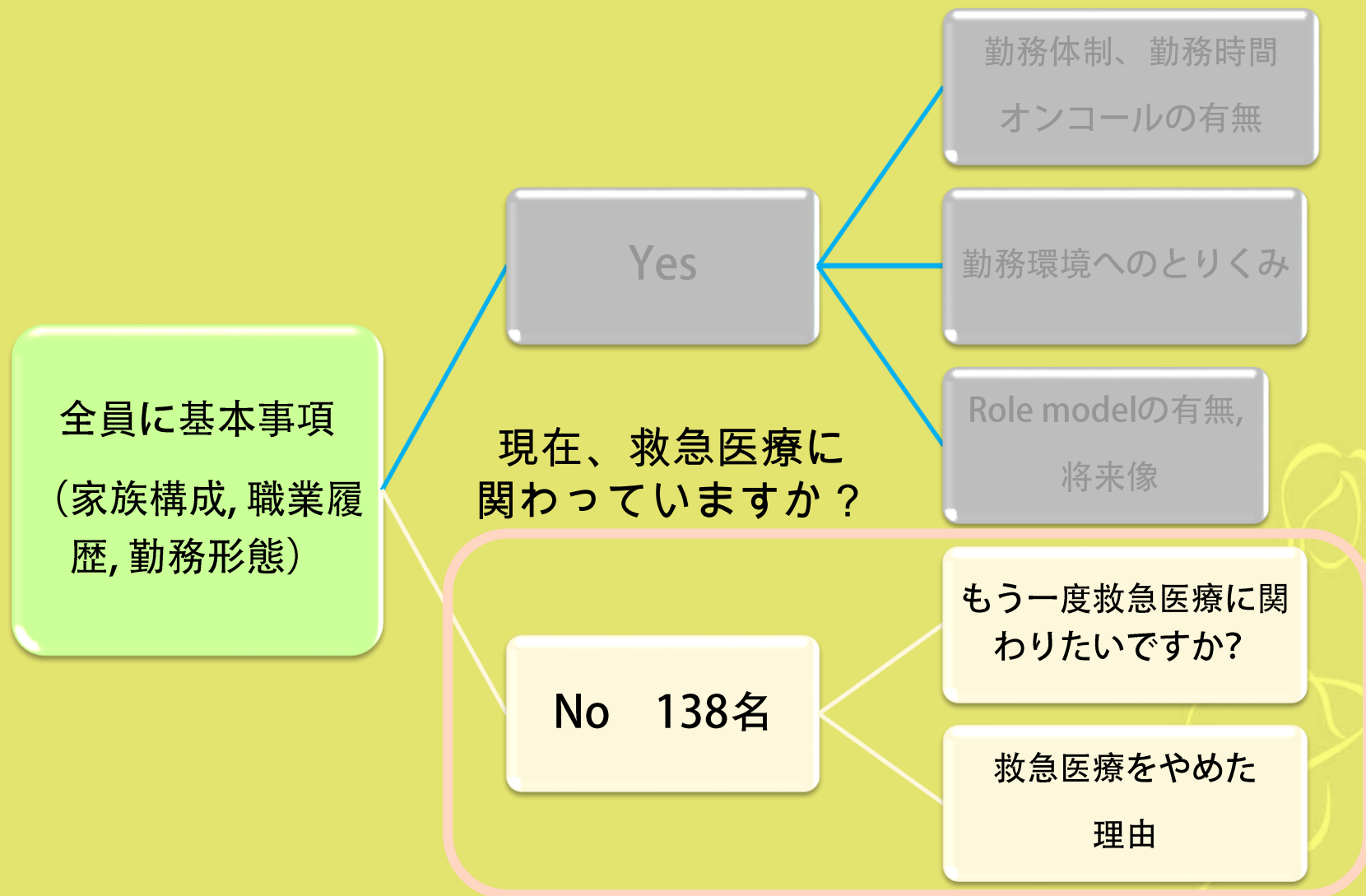
子供の有無にかかわらず, 80%が常勤で勤務している.

- 救急科の次に麻酔科や内科が多い.
- 救急専門医の4割が, double boardである.



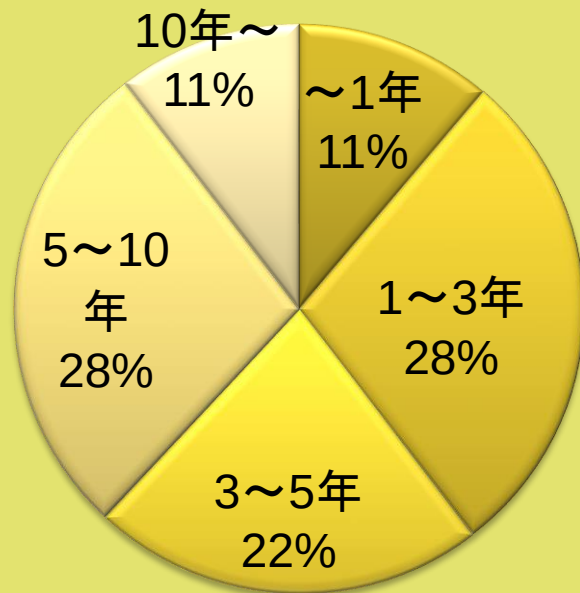
救急専門医の3割が, 現在救急診療に関わっていない.

救急医療から離れた医師 138名

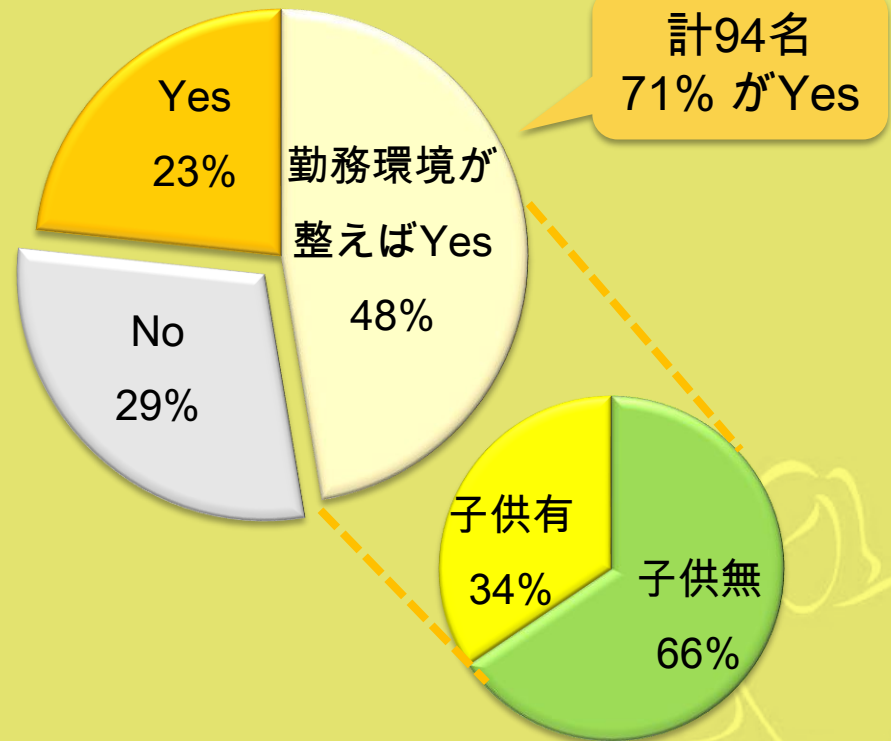


救急医療から離れた医師

救急医療に関わった年数



もう一度救急医療に関わりたい？



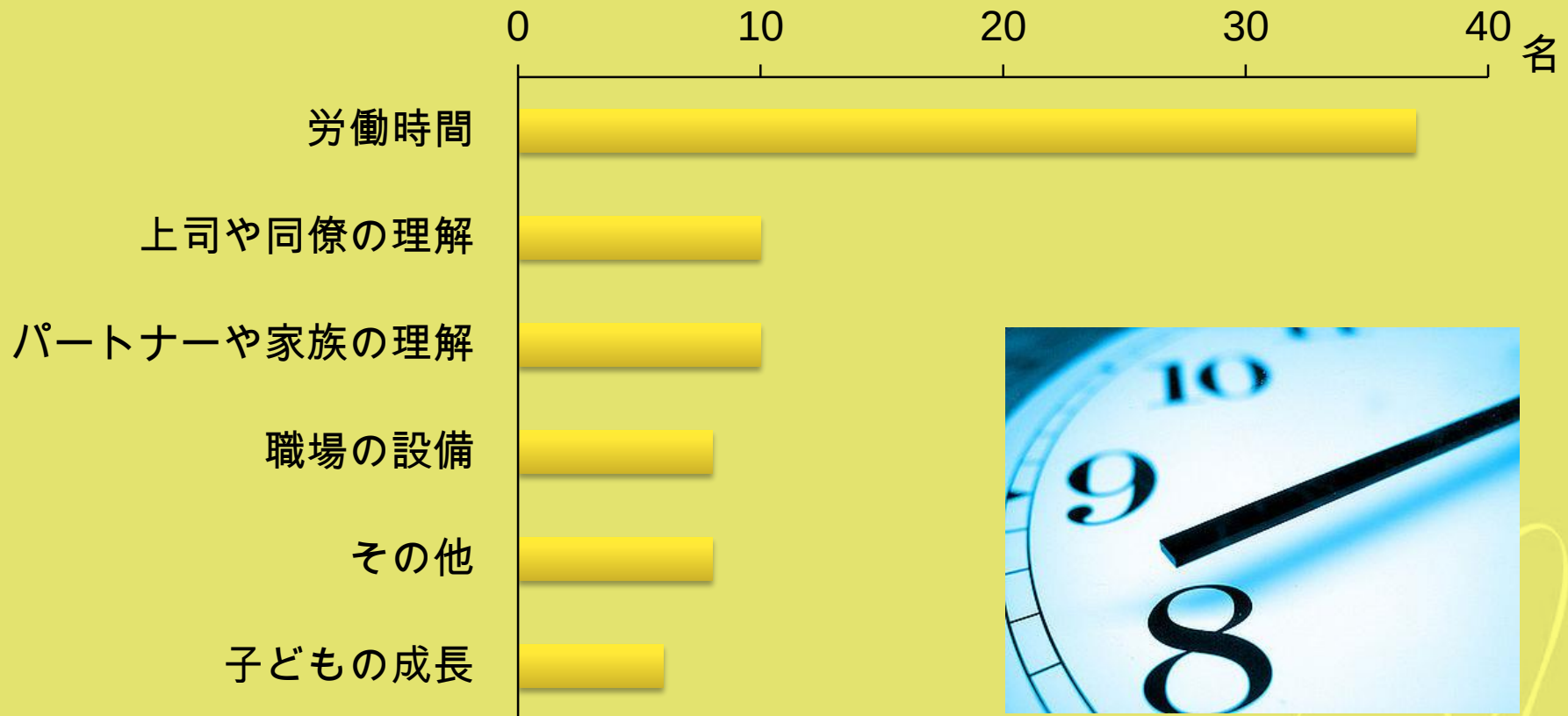
もう一度救急医療に関わりたい医師



5年以上関わってから離れた医師が39%。
もう一度救急医療に関わりたい医師は71%。

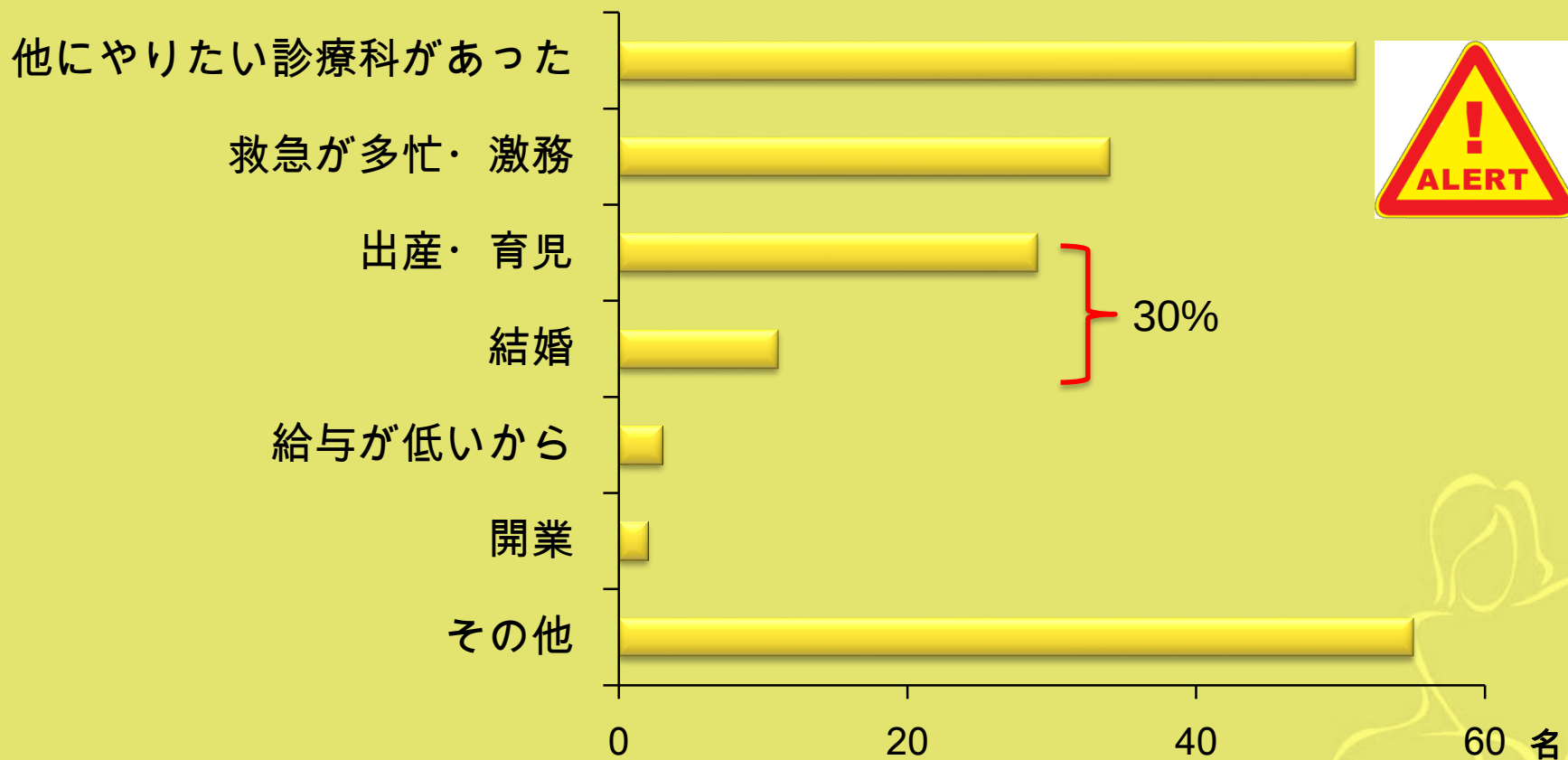
回答者 138名

何が変われば救急医療に再度関わりたいですか？



一番の問題点は、労働時間.

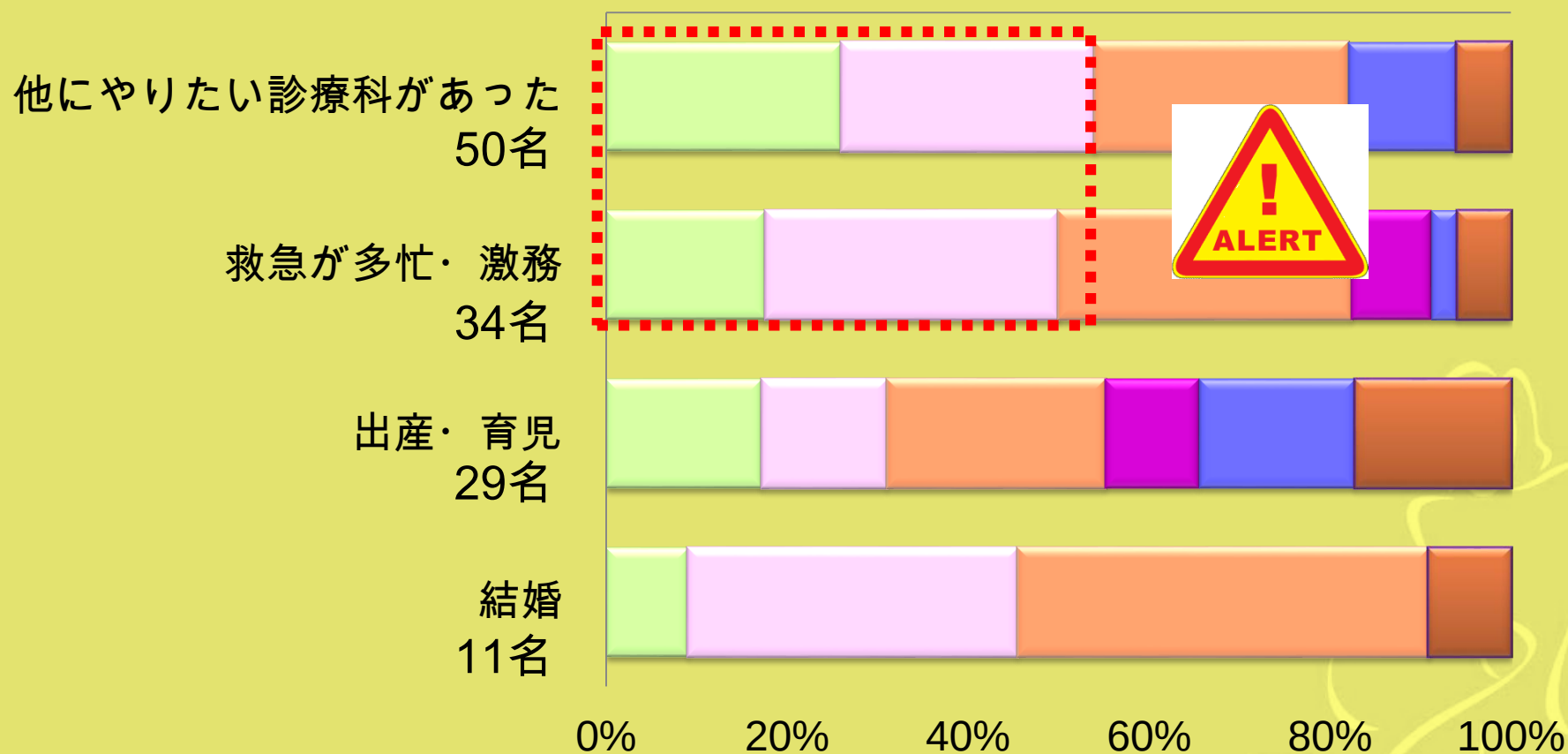
救急医療から離れた理由（複数回答）



出産・育児・結婚に伴うものが30%に過ぎない。

年齢別 救急医療から離れた理由

24~30 31~35 36~40 41~45 45~50 51~60 歳



若手の救急離れの理由に, 多忙・激務.

回答者 138名

救急医療から離れた医師 summary

- 7割の医師が再度救急に携わりたい。

→労働時間！



救急医療に5年以上携わってから離れた医師が40%.

離れた理由として



他にやりたい科があった。

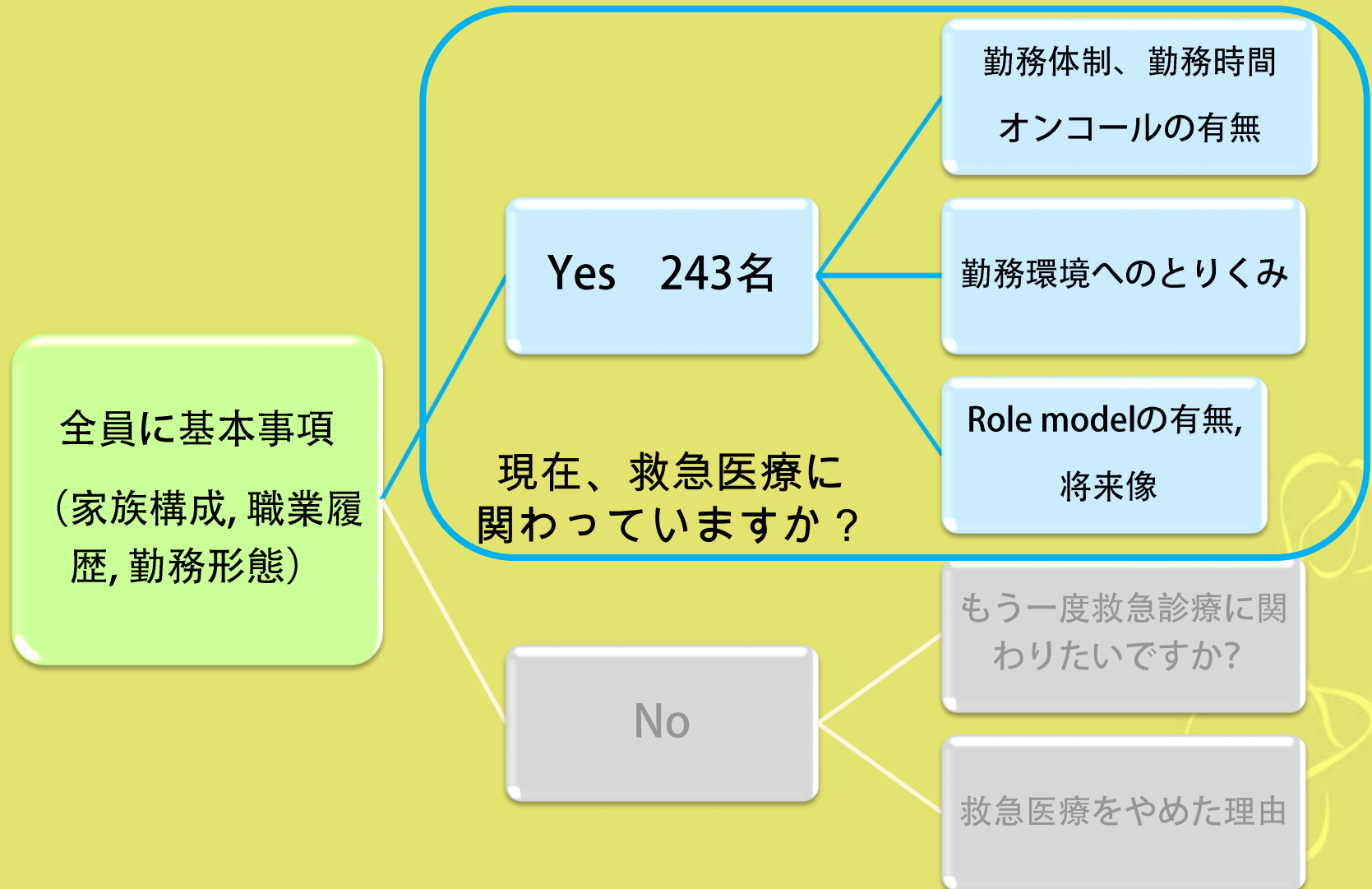
→救急医としてのIdentity の確立が必要。



激務・多忙

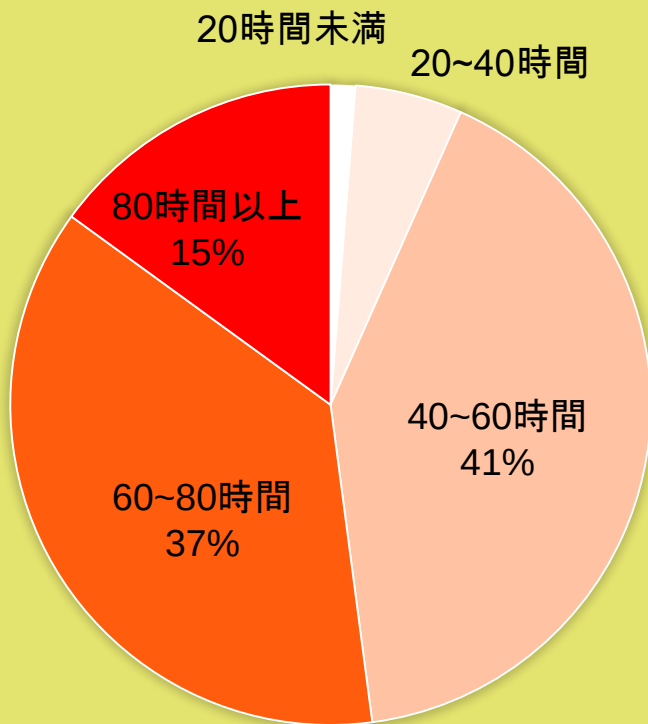
→労働環境の改善が望まれる。

救急医療に関わっている医師243名

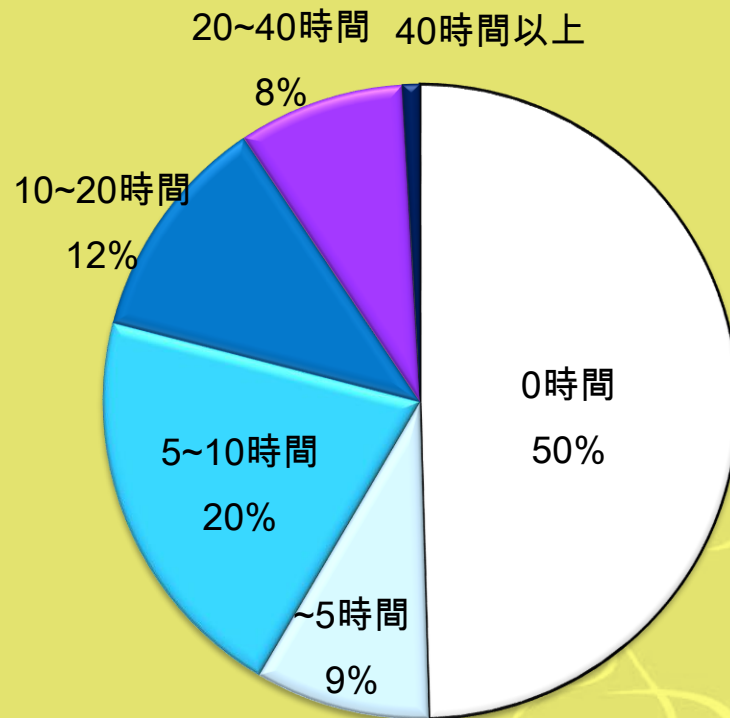


勤務時間・外勤時間

1週間の総勤務時間



1週間の外勤時間

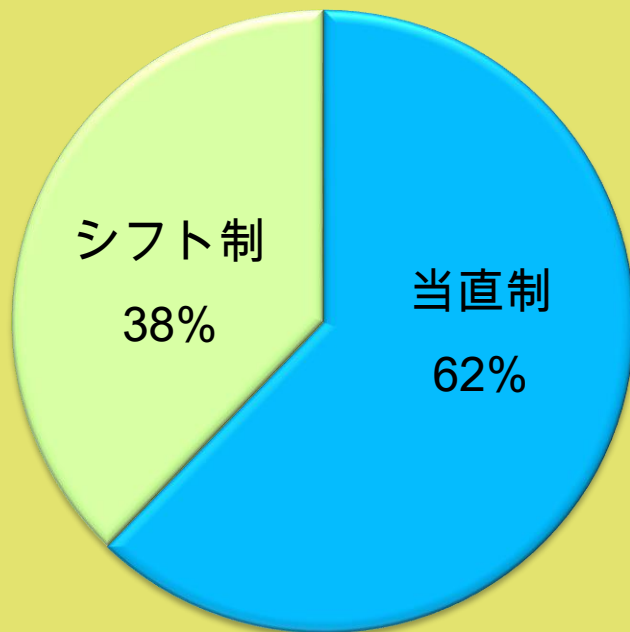


総労働時間40時間以上/週が93%.

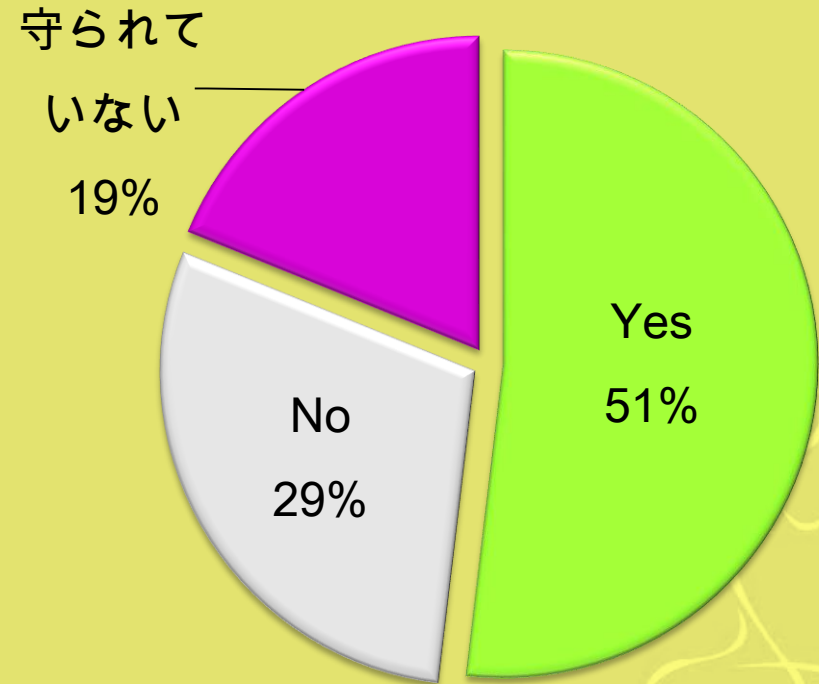
回答者 243名

勤務体制

勤務体制



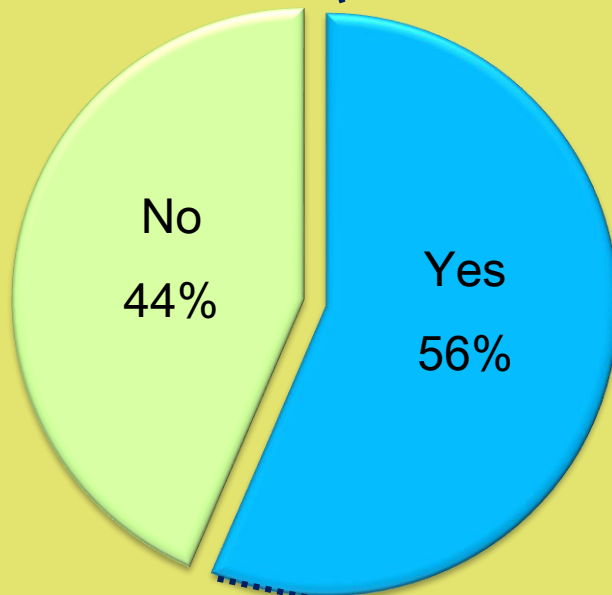
夜勤・当直あけの勤務の軽減



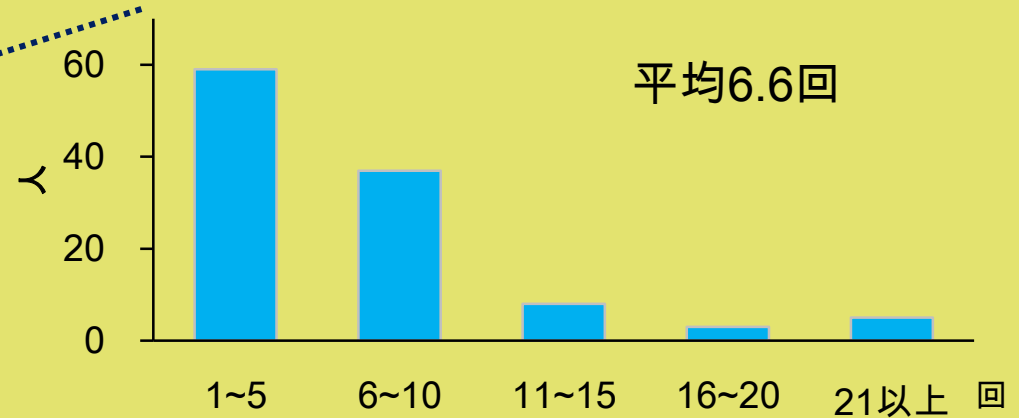
シフト制は 4割にも満たない。
夜勤や当直後も通常勤務が約半数。

On call 体制について

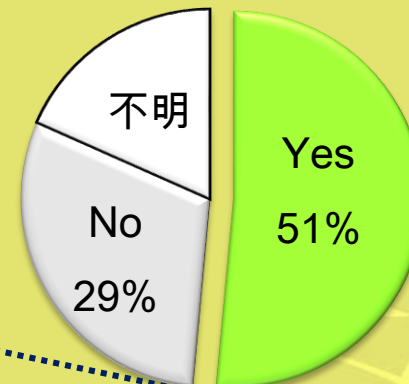
On Callの有無



On Call 回数/ 月



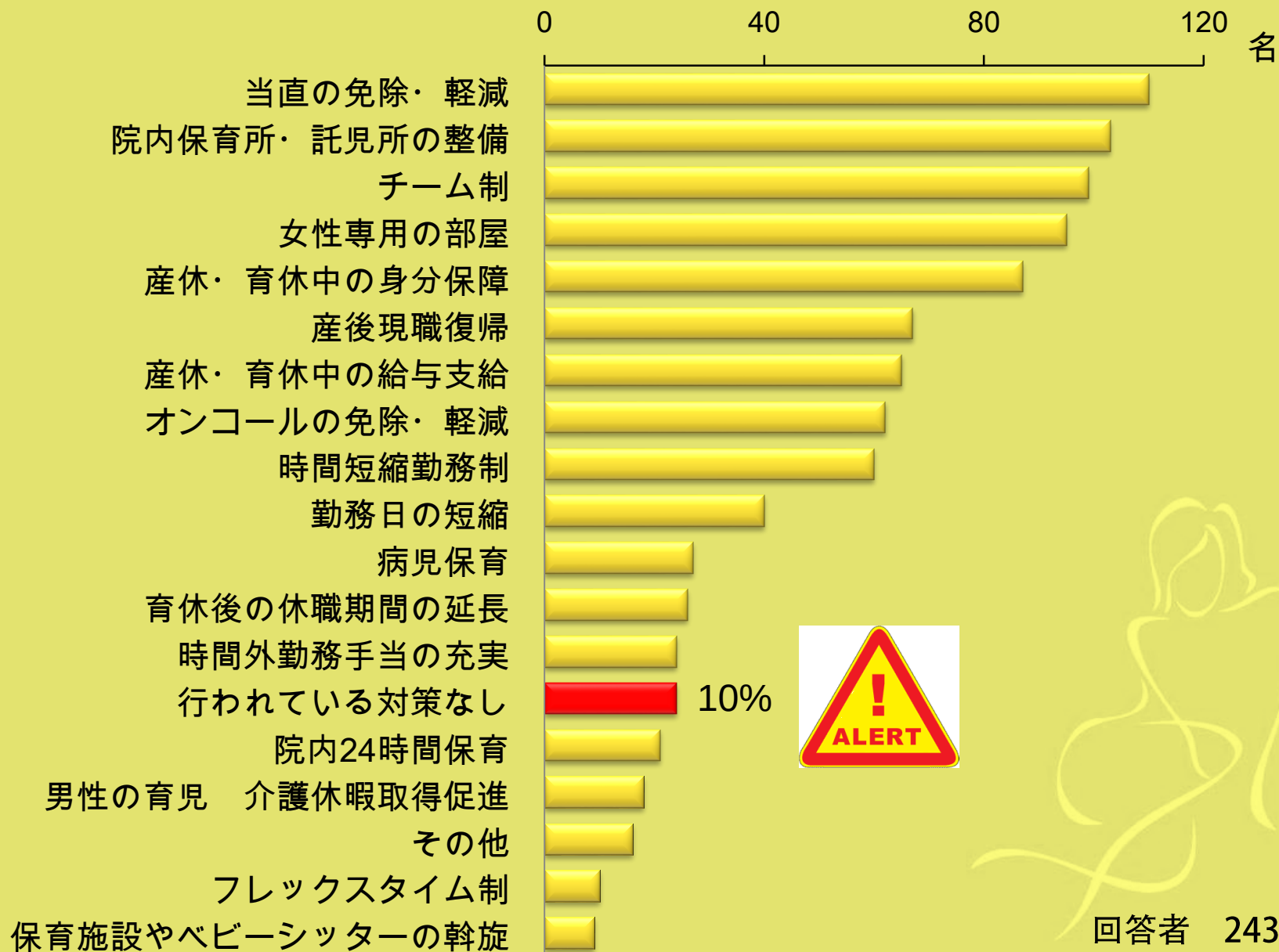
On call 手当は妥当？



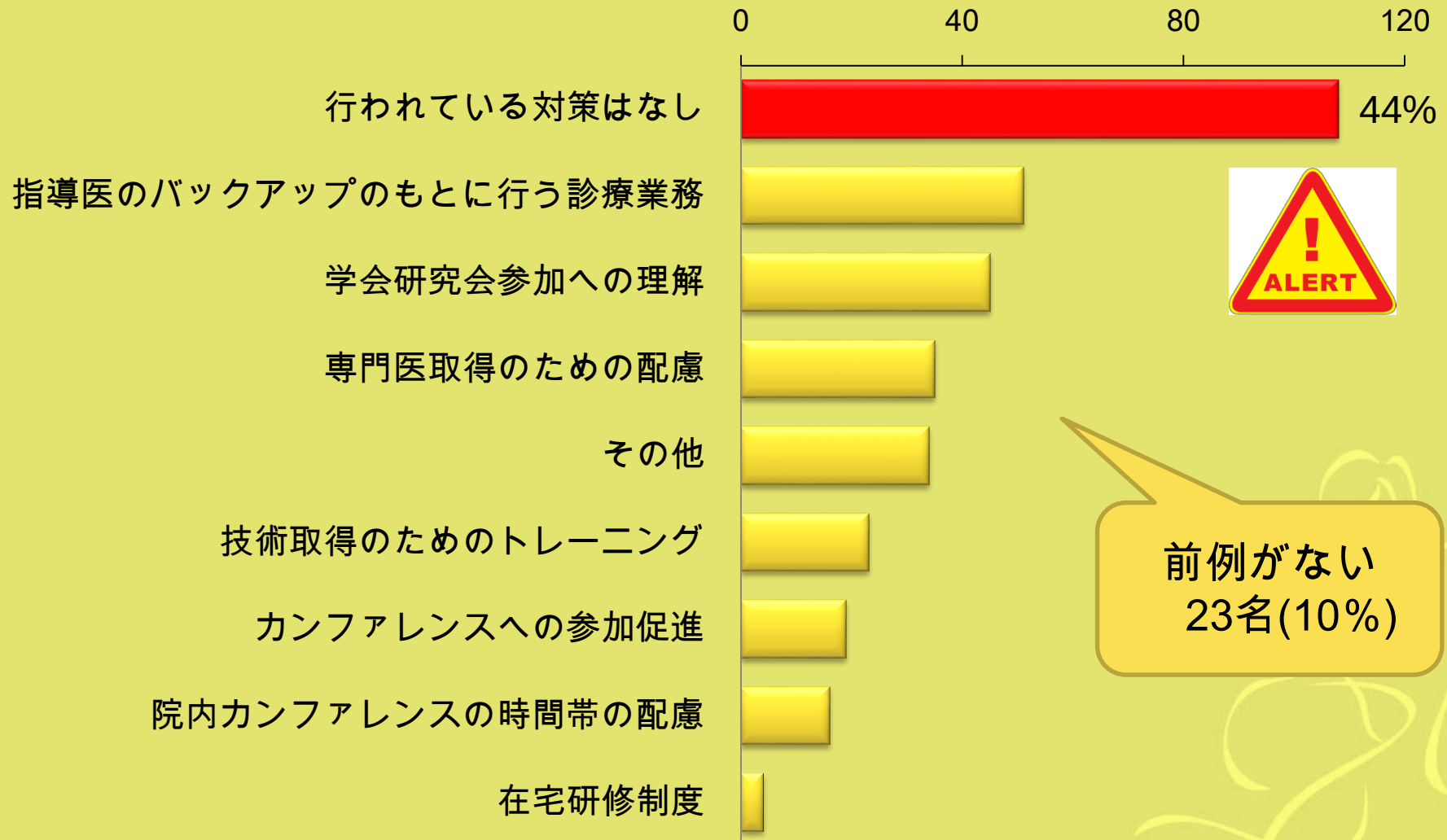
On callは平均6.6回/月.

回答者 243名

就労支援に関する勤務環境のとりくみ（複数回答）



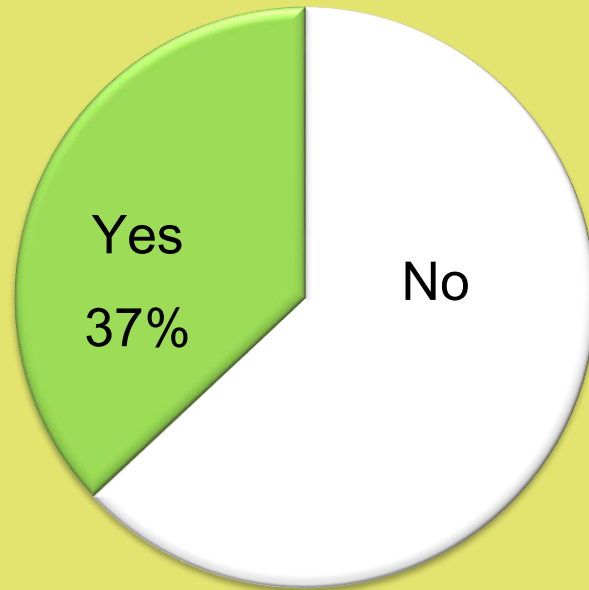
現場復帰支援に配慮した勤務環境のとりくみ (複数回答)



回答者 243名

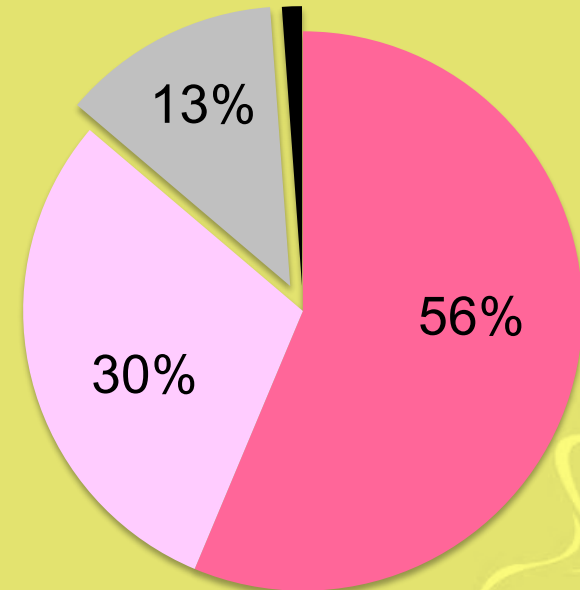
支援体制を利用し救急医療を 続けている女性医師

支援体制を利用している女性医師はいますか？



周囲の理解

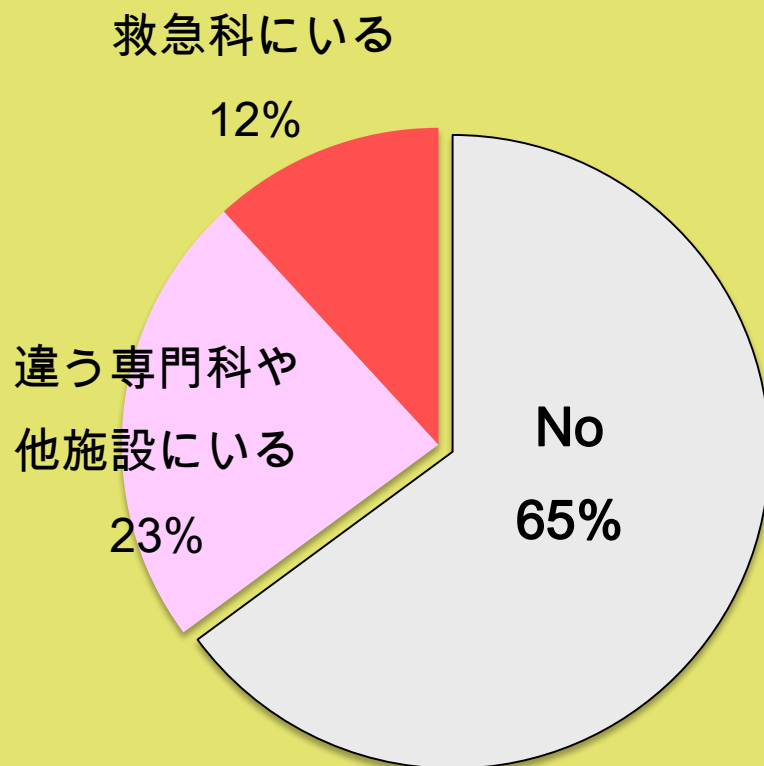
■ おおむね理解がある ■ 大変理解がある
■ どちらでもない ■ あまり理解がない



37%の女性医師が支援体制を
利用し、周囲の理解もおおむね良好。

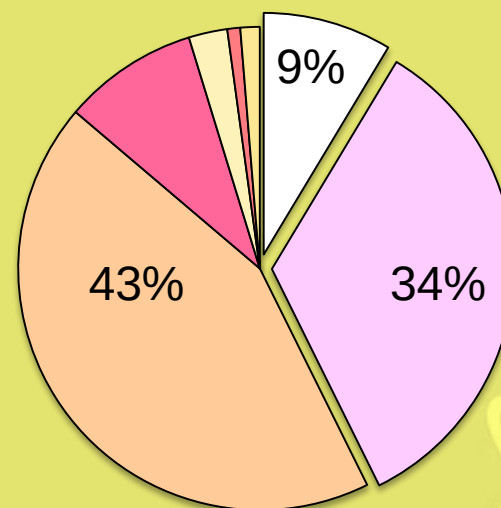
回答者 243名

女性医師のrole model



女性常勤医師数

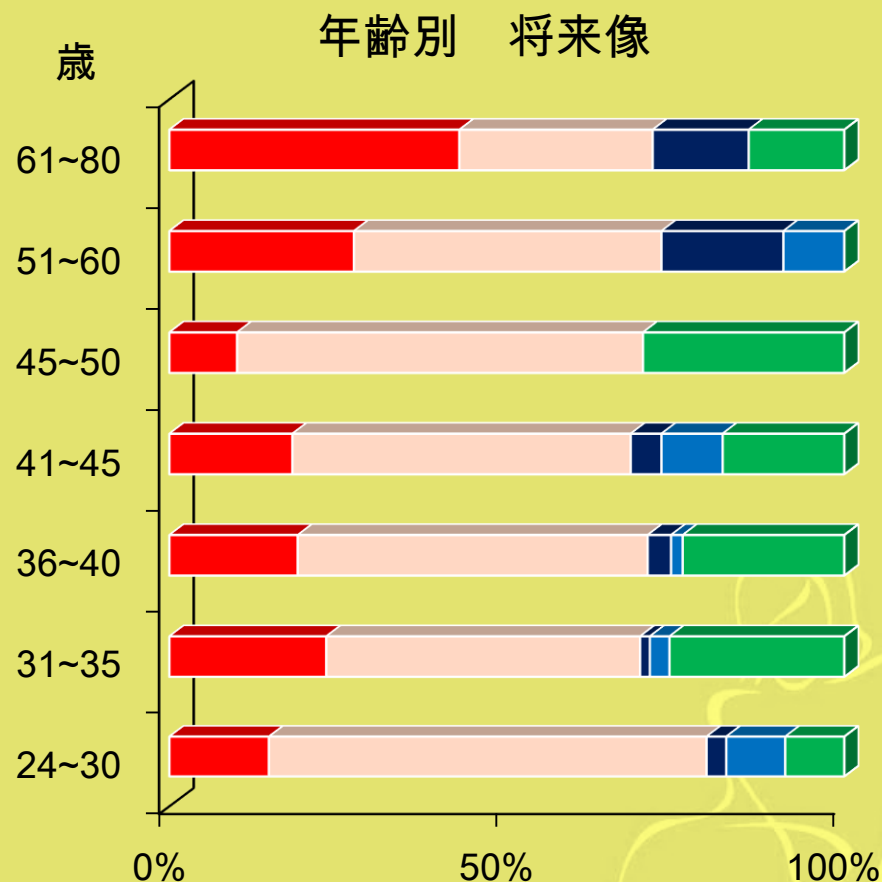
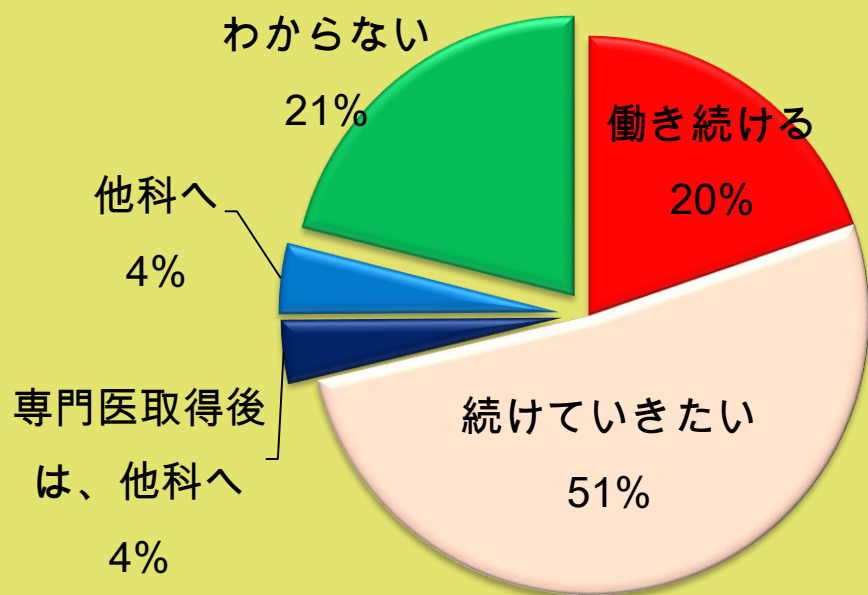
0人 1人 2~5人
5~10人 10~15人 15~20人



Role model の不在.
同じ職場内に女性常勤医師が少ない.

回答者 243名

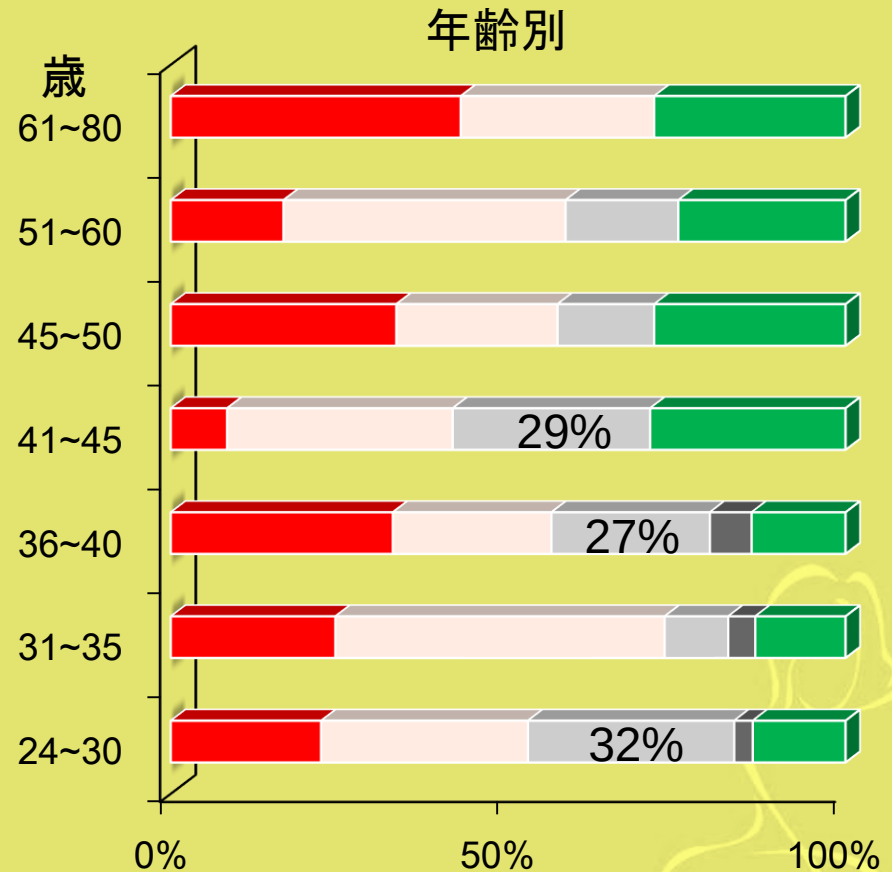
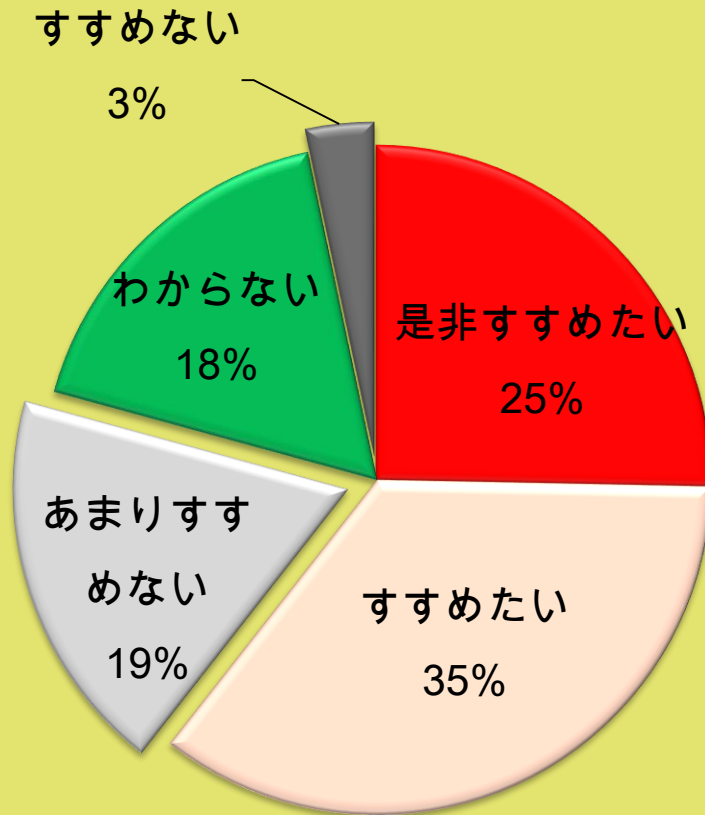
将来像 今後も救急科で働き続けますか？



70 %の医師が続けていきたい。

回答者 243名

女性医学生や研修医が救急医になることを迷っていたら？



60%が救急医になることを勧めたい。
20歳台、40歳前後の30%が勧めない！

回答者 243名

現在救急医療に関わっている医師 summary



労働時間や勤務体制は過酷である.



女性医師のrole model の不在にも関わらず, 70%の医師が今後も救急医療に関わっていききたい.



約30%の中堅女性医師が後輩に救急を勧めない!

結語

- 日本救急医学会女性医師会員385名のアンケート結果により、救急医の労働環境、将来像、救急を離れた医師の復帰支援に必要な事項が明らかとなった。

